

	<p>②のような状況で今話し合いを続けている。労基局、県の教育委員会に話し合いに入ってもらっているが、あまり進展はなさそうだ。</p> <p>③今後どのような対応をしていけば良いかわからず、出産も控えているため、早めに解決したいのですが、何か打開するための策はありますでしょうか。</p> <p>よろしくお願ひします。</p>	<p>組合員とともに喜ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組合に加入する。組合は「近々に学校長に今回の問題の説明を求める」、「組合加入を伝え、職場復帰に備える」とのこと。</li> <li>Yからは、レポートに寄稿を依頼、快諾を得る。</li> </ul> <p>※今号のレポート P3~4 に掲載</p>
14	<p><b>国 の 独 法 有期パート・事務 女性</b></p> <p><b>相談内容 3月19日の最初のやり取り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月末で丸3年になるが、面接の結果が消極的だった、との事で雇止め。</li> <li>労組は無いが過半数代表はいる。</li> </ul> <p>※5年勤続したら無期限雇用になる事ですが、これを今年度回避され退職する非常勤が多数です。 聞いてくださってありがとうございました。</p> <p><b>その後のやり取り 3月23日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨日面接落選通知がきたあと、上長にパワハラをうけた。やった仕事に今頃ありえない指摘でわたしの落ち度とされた。</li> </ul> <p>★ある方から、ユニオンを紹介されたが、もうそこまでしないで、生活のために次の仕事を探すこととした。</p>	<p>◆国立大学の職員は、独立行政法人化される数年前までは「公務員職」の分類でしたが、国公立大学は独立行政法人となつた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なので、民間労働者に適用される「労働契約法」「有期パートタイム労働法」などが適用され、「職員団体」でなく「労働組合」に合法的に加入することができます。</li> <li>しかし今回は、「雇用契約満了による雇い止め」で「解雇」ではなく、労働組合があれば、その交渉で突破できる余地はあるのですが、対抗手段は厳しいです。</li> <li>切る方は巧妙です。面接の結果、不合格という理屈は成り立ちます。しかし、まっさらな新規応募者なら「面接不合格」という理屈は成り立ちますが、3年も勤務している職員の職務評価は、「継続にふさわしい」はずだったのです。</li> <li>日常の勤務評価がどうか、そこを質すことかと思います。</li> </ul>
15	<p><b>自治体／委託先会社 有期パート・事務 女性</b></p> <p>★例えば、来年度の身分証明の顔写真を撮られ、4月からのシフトの行かれない日を伝える様に言われ、F自治体が入札した4月からの会社にてっきり更新され雇われるかと思っていたのに、この3月で雇止めにあいました。裏切られた気持ち。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普段、上の方はヒステリックで、パワハラ的な言い方をし威圧的であったり、大変陰湿で、とても閉鎖的な職場で、人間不信感、精神的苦痛を受けました。</li> <li>今後、年間的に継続する収入が無くなり、困窮している。</li> </ul> <p>その他色々あります。相談したいです。どうぞ宜しくお願い致します。</p>	<p>◆3月25日メールを送り、電話でお話を聞く。</p> <p>①X社からY社に委託替えされる際、全員が新会社に移行するが、私だけがはじかれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週1回のダブルワークだが、シフトが入らない日があることを理由とされた。実質的には「ベテラン職員」の意向ではないか？</li> </ul> <p>②都の労働情報相談センターに話を聞いてもらい、こちらを紹介された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>嫌がらせなど、話を聞いてもらいたい気持ちが一番。</li> <li>残り2~3日あるが休んでもよいだろうか？</li> </ul> <p>◆小一時間お話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事を探す必要もあり、休むのも已む得ないのでは？と助言する。</li> </ul>

# 女性非正規公務員が問う コロナ禍と会計年度任用職員のいま 「はむねっと」の発足へ始動も

竹信三恵子

(ジャーナリスト、官製ワーキングプア研究会理事)

3月20日、緊急集会「官製ワーキングプアの女性たち コロナ後のリアル」が開かれた。コロナ禍の感染拡大の下で公務の一線に何が起きているのか、この春で1年を迎える会計年度任用職員の実態はどうなっているのかを、非正規公務員の4人中3人を占める女性当事者たちの肉声で伝えようという試みだ。集会の成果をもとに当事者らの組織化を図ろうと、「公務非正規女性全国ネットワーク」(略称「はむねっと」)発足への動きも始まった。

## 「女性労働問題」としての意識化

発端は、2018年。当時、自治体の男女共同参画センターの非常勤職員で官製ワーキングプア研究会の会員でもある瀬山紀子さんによる、非正規公務の女性たちの集会だった。

女性センターの非常勤職員は、女性相談員として、さまざまな法律上の知識やカウンセリング技術、ジェンダー問題への理解などの複合的なスキルを問われる。にもかかわらず、「専門職」としての位置づけがされていないことが多い。

たとえば、総務省の「地方公務員の臨時・非常勤に関する実態調査」では、非正規の代表的な職種として「事務補助職員」「教員・講師」「保育所保育士」などが並ぶ。だが、「相談支援員」といった項目はなく、相談支援に関わる職員は、「事務補助職員」に仕分けされることが多い。業務の専門性への評価がきちんとされていないということになる。

女性相談員の賃金について、職務に対する者でなく「高卒初任給から大卒初任給の間」と、学歴一般で決められていた自治体もある。大学院で資格を取った相談員たちなどからは、「この記述はやめてほしい」との声も上がったという。それでもこれらの女性相談員たちは、「DVや虐待被害者など追い詰められている人々のために知識を生かせるやりがい」を頼りに、待遇への疑問を懸命に抑え込んで働いてきた。

2018年の集会を知り、私は、本研究会と連携し、その支援によって、より広がりのある集会をやらなければと瀬山さんにもちかけた。

私は新聞記者として労働報道にかかわる中で、2000年代初頭の小泉改革以降の公務の非正規の拡大に危機感を感じてきた。その問題点を広くアピールするため、「官製ワーキングプア」(お上が作った働く貧困者)のネーミングを初めて見出しに掲げた記事も書いてきた。そんな中で、非正規公務員の8割近くを占める女性を主体にした運動を作ることが、非正規公務員問題解決の核心になると感じ続けてき

たからだ。

瀬山さんの賛同を得て、2019年5月、本研究会の理事会にレジュメを提出し、女性に特化した非正規公務員問題のシンポへの協力を提案し、了承された。理事の皆さんとの全面的な運営への支援の下、私と瀬山さん、当時理事だった上林陽治・地方自治総合研究所研究員、ハローワーク非常勤の山岸薰理事らをパネリストに、2019年9月、「<女性>から考える非正規公務問題」シンポジウムが開かれた。

女性団体や女性ユニオンなど45団体が賛同し、会場は満席となった。このシンポは、それまで「労働問題は男性の問題」と感じがちだった非正規公務女性やそのサービスに支えられてきた住民女性たちが、「これは自分たちの問題」と意識し始める契機となった。

## コロナ禍と会計年度任用制度の二重苦

そのシンポの主催者たちによって、報告書ができた。非正規公務女性たちの思いが込められたこの報告書を広げたいと、私は知り合いの編集者に報告書を送って出版を打診した。2020年9月、『官製ワーキングプアの女性たち～あなたを支える人のリアル』(岩波ブックレット)が刊行された。

こうした積み重ねの中で、瀬山さんなど2019年シンポを進めた当事者たちから、2020年4月から始まった「会計年度任用職員制度」の影響評価をする第3次シンポを開こうという声が上がった。「会計年度任用職員」は、自治体の非常勤職員を1年有期のとして制度化、合法化するものだ。

2020年3月からの新型コロナの急速な感染拡大下、相談支援員や学童保育指導員、保育士などの非正規公務員たちは、一線で住民を支え続けた。だが、この制度は「有期公務員」にお墨付きを与え、年限の厳格化が強まり始めた。その結果、「エッセンシャルワーカー」として持ち上げられつつ、同じ3月の末にはあっさり仕事を打ち切られるという事態が相次いでいた。

そうした中で開かれた今年3月の「コロナ後の

リアル」集会は、官製ワーキングプア研究会やビデオプレスが協力し、コロナの感染が収まらない中で、ビデオプレスの松原明さんによるオンライン中継となつた。

男性も含めた199人の個人と65団体の賛同と、40万円を超す寄付が集まつた。白石孝理事長には、会場の手配や寄付金が入金される口座の管理から受付まで、裏方仕事全般で、お世話になつた。

2019年シンポのころは「なぜ女性だけ?」という疑問も聞こえてきた。だが、ブックレットに効果もあってか、「非正規の大半を占める女性たちが声を上げられないままでは待遇改善は進まず、男性非正規公務員の状況も改善されない」という合意が、それなりに生まれて来ていたと言えるかもしれない。

会場と各地を結んだ映像を通じて、非正規公務の女性たちから次々と、低待遇、ハラスメント、妊娠職員を含む安易な雇い止めやなどの窮状が報告された。その過酷さに、会場からは、ため息や息を飲む音が上がつた。

報告者の一人、東京の会場に直接参加した藍野美佳さんは、コロナ禍がはじまった昨年3月ごろから「ステイホーム」下で増えたDVの相談や、夫のもとから逃げているDV被害者が特別定額給付金を受給するための書類作成や面談が相次いでいると語つた。コロナで担当するケースは増大しているが、藍野さんの勤める市役所には婦人相談員は一人だけだ。

「行政窓口は、何とか生き延びた末にたどり着いた最後の砦」と考え、緊急の相談に対応して、ゴールデンウィーク中も出勤して弁護士のところに同行してきた。週30時間勤務に加え、休日を返上して働いても手取りは月10万円ほど。シングルマザーの身でこれでは生活が立ち行かず、婦人相談員になった8年前から、飲食店等でのアルバイトをかけ持ちしてきた。

昨年8月には、過労で出勤途中に自損事故を起こし、10日間入院した。一歩間違えば即死していくもおかしくない事故だった。50代になったころから、そんな生活に体の疲れを感じていた。だが、低賃金、昇給なし、加えて1年ごとに契約更新を強いられる会計年度任用職員の導入に、いま本気で転職を考え始めている。

ほかにも、元婦人相談員、女性関連施設職員で、キャリアコンサルタント、ハローワーク相談員、学童保育指導員、小学校学校司書などから発言が続いたが、いずれも、専門知識や資格を必要とする仕事であるにもかかわらず、低賃金、年度ごとの契約の先の見えなさに限界を感じている点は共通していた。

## 進む女性の当事者ネットづくり

集会に先立つては、当事者からさまざまなコメントも寄せられた。

「契約職員として働いています。今回のコロナ禍で、調整弁になりかねない事をあらためて感じています」「雇用制度など、根本的なところの改善のために何ができるのか考えたい。このような活動がある事に感謝です!」といった声が相次いだ。

基調報告を担当した上林さんからは、「コロナ禍と会計年度任用職員の二重苦」との現状分析が示された。同じく基調報告者となった私は、非正規公務の女性たちが「ダブルバインド(二重拘束)」と「学習性無力感」の二つにさらされていることを指摘し、克服のための当事者ネットワークづくりを提案した。

「ダブルバインド」は米国の精神科医グレゴリー・ペイトソンの概念で、矛盾した要求に不断にさらされた結果、うつなどの無気力状態に陥る症状を指す。また、「学習性無力感」は米国の心理学者マーティン・セリグマンの概念で、抵抗することも回避することも困難なストレスに長期間さらされ続けると、そうした不快な状況下から逃れようとする自発的な行動すら起らなくなる現象を指す。

「住民のためにサービスを向上させろ」と求められ、同時に、そのスキルを磨けない1年契約にさらされる、という矛盾した指示の下、女性たちは、こうした状態を抜け出す気力も奪われる。

これらの症状からの回復を図るには、自らの置かれた状況を客観的に把握することが第一歩とされている。そのために、同じ立場の女性たちがネットワークをつくり、恒常的に情報交換し「あなたは悪くない」と確認し合える場は有効なはず、と考えたからだ。

公務は、空気や水と同じように、人にとって必須のサービスを、低所得の人も等しく利用できるよう、税金でその担い手を支えるというものだ。一方、財政削減路線は税による支えを削り、「女性が家庭で無償で引き受けてきた誰でもできる仕事」「スキルなどいらない単純労働」という錯覚と偏見をフルに利用し、それを交渉権が弱い非正規に担わせることで低賃金化を進めてきた。

女性が自力で運営するネットワークは、こうして増やされてきた非正規の7割以上を占める働き手の自信と気力を回復させ、これを持続可能なものへと押し戻していくためにも必要だ。

今回のシンポに寄せられた寄付から運営費を引いた残りの資金でホームページが立ち上げられ、いま「公務非正規女性全国ネットワークネットワーク」(略称「はむねっと」)作りへ向け、準備が進んでいく。詳しくは下記のURLにアクセスしていただきたい。<https://nrwwu.com/>

これらは、官製ワーキングプア研究会の長年の活動のひとつの到達点もある。正式な発足の折には改めて案内を差し上げたいが、早く後押ししてくれた研究会のみなさんに、ひとまず、心からお礼を申し上げたい。

3月31日、任意団体の反貧困ネットワークから  
一般社団法人に移行する総会を開催した。  
当面の活動(事業)方針及び役員構成などを報告する。

## 1. 困窮者に対する相談と自立生活を支援する事業

- ① 「反貧困ささえあい基金」給付金事業を継続して、仕事や住まいを失った人々、公的支援から排除された日本国籍を持たない人々のいのちを繋ぎます。引き続き、新型コロナ災害緊急アクションに参画する諸団体との協働事業を継続します。
- ② 急増する困窮者からのSOSに対し、都県別単位で対応して生活保護申請同行、福祉事務所や生活困窮者自立支援窓口につなげる役割を果たし、対応窓口の改善を求めます。東京都、神奈川県、埼玉県に地域別担当を整備、DV被害者や自殺念慮などの対応力を強めるために年間をつうじた相談員体制の充実をはかります。
- ③ 地域単位の不動産会社との連携、携帯電話を失った方々への携帯アプリの多角的支援事業をすすめ、相談者が迅速にアパートに入居できるよう体制をすすめます。
- ④ 新型コロナ災害緊急アクションと連携した相談会、「大人食堂」を定例開催します。
- ⑤ 困窮状態にある外国人支援について専門スタッフを配置して、問題解決型相談、住まいや医療支援、入管同行など伴走型支援を連携する支援団体との連携をすすめます。
- ⑥ アパート入居後の孤立化を防ぎ、個別就労ケア、居場所づくりなど、伴走型の就労支援をおこないます。ワーカーズコープや労働者協働組合との「協同労働」に向けた仕事づくりも追及します。
- ⑦ 個室シェルター「ささえあいハウス」を運営します。  
サブリース方式を主に、個室シェルター「ささえあいハウス」を年間通して運営します。支援計画表にもとづき、個室シェルター入居者及び退所者への安否確認、福祉・住宅等の相談及び食料支援を実施し、他の支援団体等と連携をしながら入居者・退所者が安定した生活をおくれるための支援をおこないます。
- ⑧ 日本国籍を有しない方がたへ共配方式フードバンクを既存のフードバンクとの連携で事業展開する可能性を追求します。
- ⑨ 生活困窮者支援をおこなっている団体や個人と連携をし、空き家・空き室を活用した居住支援や居場所づくりを実施します。

## 2. ネットワークを広げる活動

- (1) 反貧困全国集会、貧困ジャーナリズム大賞、院内集会や自治体交渉を通じて、当初の目的である人間らしい生活と労働の保障を実現し、貧困・格差問題を社会的・政治的に解決し、ささえあいの連帶社会に向けた提起を行います。全国の反貧

困団体と広く繋がること、現場で奮闘するジャーナリストを激励し、連帯するなどの役割を果たします。

- (2) この間、連帯交流を進めてきた韓国などの社会運動団体や住民連帯と、コロナ禍における貧困・格差を克服するための国際オンラインシンポジウムを企画することを通じ、連帯交流を深めます。
- (4) コロナ禍以降の生活変化を見据えて「反貧困TV」を定期的に配信するなど学習会の充実をはかります。
- (5) SNS、ホームページの充実化を図り、当法人の取り組みの認知度を高めます

## 3. 組織運営・管理体制

- (1) コンプライアンスを順守し、健全な運営・実務管理を図ります。非営利型の一般社団法人として健全な事業運営を推進します。
- (2) 専従職員の配置含め、事務局組織体制の整備・強化を図ります。業務課題や役割の明確化を追求します。
- (3) 助成金や補助金、クラウドファンディングなどの収入増加をつうじて、財政面でのさらなる安定化を図ります。クレジットカードでのささえあい基金へのカンパが可能なしくみに改善します。

## 反貧困ネットワークの役員体制

- 代表理事：宇都宮健児(弁護士)
- 専務理事兼事務局長：瀬戸大作(事務局長、事業統括理事)
- 常務理事：稻葉奈々子(上智大教授、移住連貧困対策PT)、白石孝(NPO法人官製ワーキングプア研究会)
- 業務執行理事：猪股正(反貧困埼玉、弁護士)、阪上武(事務局次長、管理会計担当、反貧困ささえあい千葉)、佐々木大志郎(企画・広報担当、つくりい東京ファンド)、杉浦幹(津久井やまゆり園事件を考え続ける会、神奈川支援)、中村光男(一般社団法人あじいる、企業組合あうん)、林治(顧問弁護士)、原文次郎(外国人支援担当、移住連)
- 一般理事：大塚恵美子(元東村山市議)、竹信三恵子(ジャーナリスト)、那須淑夫(事務局、公正な税制を求める市民連絡会)、西田えみ子(DPI障害者権利擁護センター)、藤井秀樹(事務局、フリーター全般労組)、八代田道子(消費生活アドバイザー)、綿貫公平(なくそう子どもの貧困全国ネットワーク)
- 監事：内山貴夫(元都立高校教員)、渡邊由紀子(希望のまち東京をつくる会)
- 世話人：雨宮処凜

また、下記緊急アクションの構成団体や基金の状況も報告する。